

開催趣旨

これまで食料自給率向上に向けた種々の政策が立案され実施されてきたにもかかわらず、食料自給率は依然として40%の水準でしかありません。食生活が大きく変化していること、農地の減少と耕作放棄地の増加、農業担い手の減少と高齢化の進展などいわゆる資源の低利用と脆弱化が進み、食料の供給が需要の変化に追いついていないことが主な理由です。これに、農産物販売価格の低下と生産・流通に関わるコストの増加に起因して農業所得が著しく減少していることが背景にあります。他方、海外からは安価で良質な食料が輸入され続けており、これからもわが国の食料供給は、国内生産と輸入を組み合わせ、消費者需要の多様なニーズに応じていかなければなりません。

不透明で不安定な世界の需給見通しを前提にすれば、ある程度食料自給率を高め、供給力を保持していくことが国家の安全保障上きわめて重要といえます。食料の安定確保への努力はまた、農村の活性化と環境を維持・保全することにもつながります。

本シンポジウムでは、世界の食料需給を取り巻くグローバルな視点を踏まえ、またわが国の食と農の現状を見つめ直すなかで、食生活の望ましいあり方、農業生産の新しい展開機軸、適切な地域活性化の方向、食料・農業・農村の安定と発展に資する政策ビジョンの構築など多面的に議論を展開することを通じて、わが国の食料自給率向上へ向けたムーブメントを引き起こすことを目的に掲げています。本シンポジウムで繰り広げられる活発な議論が、文字通り日本の農業を変える一つの重要な転換点となることを期待しています。

東京農業大学総合研究所 プロジェクト研究「わが国の食料自給率向上への提言」研究代表者

板垣 啓四郎 (東京農業大学教授)

プログラム

12:30 | 受付開始 13:00 | 開場

13:30 開会 出演者紹介 スケジュール説明 (司会：河野友宏／東京農業大学総合研究所 所長)

13:40-14:00 主催者あいさつ

大澤 貫寿 | 東京農業大学 学長

岸井 成格 | 毎日新聞社 主筆

14:00-15:00 第1部 現地報告

吉田 道明 氏 | 吉田農園代表 (滋賀県、Uターン新規稲作農業者)

境谷 博顯 氏 | 有限会社 豊心ファーム 代表取締役 (青森県大規模土地利用型農業者)

仙石 利幸 氏 | 宮城県角田市産業建設部 農政課課長補佐

坂本 廣子 氏 | サカモトキッチンスタジオ主宰 (料理研究家)

休憩 15分間

15:15-17:00 第2部 パネルディスカッション「食と農の将来のために」

コーディネーター 中村 靖彦 氏 | 東京農業大学 客員教授

パネリスト 篠原 孝 氏 | 農林水産副大臣

結城登美雄 氏 | 民俗研究家

茅野 信行 氏 | ユニパックブレイン株式会社 代表取締役

秋岡 榮子 氏 | 上海万博日本産業館館長／経済エッセイスト

金田 憲和 氏 | 東京農業大学 准教授

クロージングリマックス

三輪 睿太郎 | 東京農業大学 教授

食料の安全保障と 日本農業の活性化を考える Part 2



日本の農業を変えよう！ 皆の問題を皆で考えるシンポジウム

日時 平成22年 **12月8日(水)**
13:30～17:00

会場 **丸ビルホール**
千代田区丸の内2-4-1 丸ビル7階 (東京駅より徒歩1分)

後援 農林水産省、全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、日本農学アカデミー、実践総合農学会、東京農業大学総合研究所研究会

シンポジウム 食料の安全保障と日本農業の活性化を考える Part 2 日本の農業を変えよう!



主催者あいさつ

主催者からのメッセージ



オオサワ カンジュ
大澤 貫寿
東京農業大学 学長

■1944年、茨城県生まれ。
■1968年、東京農業大学農学部卒業後、東京農業大学に奉職。総合研究所長、大学院農学研究科委員長、応用生物学部部長を経て、2005年に東京農業大学、同短期大学部学長に就任。専門分野は、生物有機化学、化学生態学、農学博士。
■今回のシンポジウムの発案者。
■学校法人東京農業大学理事、日本農業学会評議員、東南アジア国際農学会副会長、大日本農会理事ほか。日本農業学会賞(業績賞)、望月喜多司記念賞など受賞。
■主な著書に「新農業開発の最前線」など。



キシイ シゲタダ
岸井 成格
毎日新聞社 主筆

■1967年 慶應義塾大学法学部卒業後、毎日新聞社入社。熊本支局、東京本社政治部、ワシントン特派員、政治部長、論説委員長などを経て、2010年6月より現職。
■「サンデーモーニング」(TBS)、「政治討論 われらの時代」(BS-TBS) などテレビ番組出演。
■著書に、「政変」、「政治家とカネ」、「財界と政界」、「昭和の妖怪」、「永田町の通信簿」、「大転換-瓦解へのシナリオ」など。

第2部

パネルディスカッション「食と農の将来のために」(105分)



ナカムラ ヤスヒコ
中村 靖彦 氏
東京農業大学 客員教授

■宮城県生まれ。
■1959年、東北大学文学部卒業後、NHKに入局。仙台支局を皮切りに番組ディレクターとして主に農業番組を担当。1984年、NHK解説委員となり、ジャーナリストとして農業問題をつつめ、米価審議会委員、畜産振興審議会委員、食品安全委員会委員等を歴任。2001年にNHKを退職後も農政ジャーナリストとして活躍中。日本食育学会会長、NPO法人「良い食材を伝える会」代表理事。女子栄養大学客員教授。
■著書に、「シカゴファイル2012」、「コメ開放・どう変わる日本農業」、「ニッポン 食卓新事情」、「おいしい米の本」、「子どもたちのための食育教育」など多数。



シノハラ タカシ
篠原 孝 氏
農林水産副大臣

■1948年、長野県生まれ。
■1973年、京都大学法学部卒業後、農林省(現農林水産省)入省。米国ワシントン大学海洋総合研究所、カンザス州立大学農業経済学部留学後、経済協力開発機構(OECD)日本政府代表部参事官、水産庁企画課長、農林水産政策研究所長などを歴任し、2003年退官。同年の衆議院議員選挙に出馬し当選(現在三期目)。2010年6月、農林水産副大臣に就任(同年9月再任)。農学博士。
■副大臣就任翌日から政府口蹄疫現地対策本部長として宮崎入りし、約1ヶ月間陣頭指揮。現在は、EPA(経済連携協定)の推進と農業・農村の振興の両立、農業者戸別所得補償の本格実施といった難題に奔走。
■著書に、「農的小日本主義の勧め」、「農的循環社会への道」、「第一次産業の復活」、「EUの農業交渉力」、「花の都パリ」[外交赤書]など。

第1部

現地報告(60分)



ヨシダ ミチアキ
吉田 道明 氏
吉田農園代表
(滋賀県Uターン新規稲作農業者)

夢を持てる米づくり! 米の多様な可能性に着目する
「プロダクト・アウト」から、いま「マーケット・イン」へ。「本当に消費者が求めるお米とは?」の視点から始まる米づくり。日本の農業を変えるのは、農家でなく消費者です。

■1968年、農家の次男として滋賀県長浜市(旧虎姫町)に生まれる。
■環境問題の講演に参加し、食の安全に興味を持ち、和食料理店の店長から30歳で米農家へ転身。農業を否定してきた人生から一転、農業に充実したやりがいとワクワクする夢を持つ。
■現在35haを耕作(うち無農薬栽培面積 約12ha)し、主にこだわりの無農薬の美味しいお米を「長寿米」ブランドで、全国へ宅配している。
■2006年、全国米・食味分析鑑定コンクール 若手農業者部門 金賞受賞。2009年、毎日農業記録賞 優秀賞受賞。



サカイヤ ヒロアキ
境谷 博顯 氏
有限会社 豊心ファーム 代表取締役
(青森県大規模土地利用型農業者)

農業一筋でメシを食う ~地域とともに~
稲作・小麦作・大豆作の受託拡大で収穫作業面積は実に245ha。機械化一貫作業で経営効率化を重視。コスト削減と高品質生産を目指しています。

■1950年、青森県生まれ。
■1969年、高校卒業と同時に就農(当時水田面積は7.4ha)。
■1998年、有限会社 豊心ファーム 設立。現在の経営規模は、水稲59ha(うち受託27ha)、小麦90ha(うち受託84ha)、大豆96ha(うち受託85ha)の合計245ha。
■県稲作部会顧問。県農業法人協会理事。小田川土地改良区理事。
■2008年、全国担い手育成総合支援協議会会長賞受賞。2010年、全国農業コンクール グランプリ(毎日農業大賞)受賞。第49回農林水産祭農産部門で天皇杯受賞。



センゴク トシユキ
仙石 利幸 氏
宮城県角田市産業建設部 農政課課長補佐

地方行政からみた農業の現場はいま ~角田市からの報告~
地方農政の現場から、戸別所得補償モデル対策、新規需要米(米粉用・飼料用・WCS用稲)の生産、中山間地域対策、担い手の育成・確保、環境保全対策の最前線をレポートします。

■1957年、宮城県角田市生まれ。
■1980年、山形大学農学部卒業後、角田市役所に就職。農林行政を主に経験し、1999年、社団法人角田市農業振興公社の設立に関わる。
■2007年に農業委員会事務局次長、2009年より現職。
■米・果樹・野菜の振興、農業制度資金、米の生産調整、畜産、林業、担い手対策等を担当する。



サカモト ヒロコ
坂本 廣子 氏
サカモトキッチンスタジオ主宰(料理研究家)

農をささえる地域食育 ~子どもから家庭へ~
氷見市内の全小学生が、郷土料理を作るワークブックを作成し、体験を報告するプログラムを実施、途切れかけた伝承を子どもから家庭に戻すことによって地域の意識がどう変わったか報告します。

■兵庫県神戸市生まれ。
■同志社大学英文科卒業。
■幼児期からの食育を30年以上前から提唱し、日本の食育実践の先駆け、NHK教育テレビの「ひとりのできるもん」の産みの親でもある。「台所は社会の縮図」として、食育、介護、防災、食の村おこしなど、広く問題解決に取り組む社会派料理研究家。
■相愛大学客員教授。近畿米粉食品普及推進協議会会長。大阪府食育検討委員会座長ほか多数兼務。
■著書に、「五感で学ぶ食育ガイド キッズキッチン」、「国産米粉でクッキング」、「台所育児「一歳から包丁を」」など多数。



クウキ トミオ
結城 登美雄 氏
民俗研究家

■1945年、旧満州(中国東北部)生まれ。
■山形大学卒業後、広告デザイン業界に入る。その後15年にわたり東北の農山漁村をフィールドワークしながら、住民を主体にした地域づくりの手法「地元学」を提唱。出版界、演劇界、学者、研究者、建築家などとネットワークしながら、宮城県を中心に東北各地で地域おこしの活動を行っている。また、雑誌や新聞を中心に農と地域づくりについて多数執筆中。
■1998年、NHK東北ふるさと賞受賞。2004年、芸術選奨芸術振興部門文部科学大臣賞受賞。
■著書に、「山に暮らす海に生きる」、「東北を歩く~小さな村の希望を旅する~」、「地元学からの出発(シリーズ地域の再生第1巻)」など。



アキオカ エイコ
秋岡 榮子 氏
上海万博日本産業館館長/経済エッセイスト

■1980年、一橋大学社会学部卒業後、(株)日本長期信用銀行(現新生銀行)入行。1998年、同行退社後は、(有)E&Cブリッジ代表取締役に就任するとともに経済キャスターとして、講演、テレビ、ラジオ出演、執筆活動等を行う。2008年、上海万博日本産業館出展合同会社事務局長に就任し、同プロジェクトのスタート時から参画。2010年、上海万博日本産業館館長に就任。開期中は、中国語の語学力を生かして上海に常駐。
■農林水産省食料農業農村政策審議会委員、農林水産省水産政策審議会委員、静岡総合研究機構客員研究員、(株)リサ・パートナーズ社外取締役など。
■著書に、「これがIT革命だ」、「どうなるITバブル崩壊後」など。



チノ ノブユキ
茅野 信行 氏
ユニパックグレイン株式会社 代表取締役

■1949年、長野県生まれ。
■1976年、中央大学大学院商学研究科修士課程修了後、穀物メジャーのコンチネンタル・グレイン・カンパニー入社、穀物輸出業務に従事。1988年、同社コモディティ・トレーディング・マネージャーに就任。1999年、ユニパックグレイン株式会社を設立し代表取締役となる。
■國學院大学経済学部教授(経営戦略、企業リスク・マネジメント)、中央大学商学部兼任講師。
■著書に、「アメリカの穀物輸出と穀物メジャーの成長」、「食糧格差社会」、「プライシングとヘッジング」、「農業リスクマネジメント」(監訳)など。



カナダ ノリカズ
金田 憲和 氏
東京農業大学 准教授

■1966年、愛知県生まれ。
■1989年、東京大学農学部卒業後、同大学院農学研究科農業経済学専攻を修了。同大学助手を経て、1997年より東京農業大学専任講師。現在、東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科准教授。専門分野は、農業経済学、国際貿易論。博士(農学)。東京農業大学総合研究所プロジェクト研究「わが国の食料自給率向上への提言」の研究メンバー。現在の主な研究テーマは国際貿易理論に基づく食料需給の研究など。
■著書に、「土地資源と国際貿易」、「コメ経済と国際環境」(共編)、「食と環境」(共著)など。



ミワ エイタロウ
三輪 睿太郎 氏
東京農業大学 教授

■1943年、東京都生まれ。
■1965年、東京大学農学部卒業後、農林省入省。農業技術研究所、農業環境技術研究所などを経て、農林水産技術会議事務局、農業研究センター所長(独)農業技術研究機構理事長、(独)農業・生物系特定産業技術研究機構理事長などを歴任。2006年より現職、2007年より農林水産省農林水産技術会議会長を兼務。
■一貫して肥料学、物質循環と環境の研究に従事し、日本土壌肥料学会賞、日本農業研究所賞受賞。農学博士。
■著書に、「土の健康と物質循環」(共著)、「土の生産力と地球の定員」(共著)など。

クロージングリマークス